

昭和興産

昭和興産は中期経営計画「SK2020」で、新規商材の育成と海外展開の強化を推進する。海外展開では年初に中国で広州の連絡事務所を分公司に昇格させており、今後もアジア拠点の拡充を検討するなどアジアでの存在感向上」に努めていく。

同社の2017年度決算は合成樹脂、化学品、情報電材、産業資材の全部門が業容を拡大し、増収増益となった。同年度には重点施策として、現在進めている中計の見直しや中国華南地域での事業拡充と再編成、新人事制度の本格運用、資本政策の実行、事業構造の改革推進、新基幹システムへの移行に取り組んだ。

アジアで存在感を高める

前倒しで実施し、目標必達に向けた体制の立て直しを図った。

また中国華南地区での事業拡充と再編成については、香港現地法人の機能を上海現地法人広州分公司に集約、香港現法を廃止した。同社は海外展開について、中国2拠点とタイ、インドネシアの現法で展開している。タイと上海の業績は好調が継続、インドネシアも赤字脱却・黒字化が目前となっており、今後も顧客の動向に合わせた進出を検討していく。まずはベトナムへの進出に向け準備を進めている。

事業構造の改革推進では、新規分野、新規顧客開拓を狙いとしてM&Aも個別かつ具体的に検討。海外でのアグリ関連の新規商材についてはプロジェクトとして取り組んでいる。

さらに積極的な外部人材の登用や17年4月導入の新人事制度の本格運用など人材面からの内部体制強化にも努めている。

現在進めている中計は最終年度の20年度に売上高1000億円（国内外単純合算）の達成を目標としている。今回実施した見直しでは、当初3年経過後に予定していた「重点取り組みテーマ」などの中間見直しを1年